

意見書

令和3年12月24日

小矢部市外部評価委員会

令和3年12月24日

小矢部市長 桜井森夫様

小矢部市外部評価委員会

委員長 西尾憲子



令和3年度小矢部市外部評価委員会意見書の提出について

小矢部市外部評価委員会（以下「委員会」といいます。）は、小矢部市の行政執行に関し、市民等による行政外部の視点を確保し、評価の客観性・信頼性を高めることを目的として設置されているものです。

本年度は、小矢部市が令和2年度に執行した事業の中から4事業を選択し、2回にわたって評価を行いました。また、事業の選択に関しては、小矢部市が本年10月に公表されました、市民満足度調査の結果を踏まえ、前回調査から満足度が低下した政策に関する事業や、予算配分の観点から、「重要度が低く、満足度が高い政策」や「重要度、満足度とも低い政策」に関する事業から優先的に選ばせていただきました。

各事業の評価結果は別添のとおりですが、今後、市当局におかれましては、新年度の予算編成等に当たっては評価結果を参考の上、市民の理解を得て適切な行政執行に当たられるようお願いいたします。

なお、個別事業評価とは別に、今回の委員会で特に重点的に議論となった点については下記のとおりですので、併せて付記いたします。

記

○結婚活動支援事業

本事業は、小矢部市の少子化対策の一環として、おやべ縁結びの会及び婚活支援員を設置し、結婚を希望する独身男女の出会いの場の創出や、「おやべの縁結びさん」による婚活のサポートを行う事業である。

コロナ禍により、婚活イベントや相談会の開催に制限がかかり、令和2年度は思うような活動ができなかったと思われるが、今後はオンライン相談やマッチング、SNS等を有効に活用して、新しい生活様式に対応したサポートに取り組んでいただきたい。加えて、定住施策もしっかりとPRして、結婚後も市内での定住に繋がる事業にしていきたい。

また、委員会で委員から提案のあった様々なアイデアや意見があったので、「3評価結果」の今後の方向性・コメントに掲載しておくので、次年度以降の参考としていただきたい。

○地域子育て支援拠点事業

本事業は、子育て中の親子や家族が集い、育児不安等に関する相談や指導、情報提供等を行うとともに、保護者間の交流の場を設けることにより、各家庭の子育てを支援する事業である。

こちらの事業も、コロナ禍により本来の形での事業実施が困難であったと伺ったが、今後は感染状況に応じて柔軟な対応を行い、できるだけ多くの方が利用できる事業としていただきたい。また、今年度開催された第13回小矢部市女性議会でも、第1回外部評価委員会内でも意見がありましたが、公立施設の土日開所については、ニーズ調査を実施されているとのことでしたので、ニーズに応じた事業展開を期待します。

いずれにしても、小矢部市の子育て支援の拠点として、引き続き各家庭の子育て支援をお願いしたい。

1 小矢部市外部評価委員会の構成

職名	氏名
委員長	西 尾 憲 子
委員	新 明 政 夫
委員	舟 本 淳 子
委員	八十島 拓 也
委員	西 中 亜希子

2 小矢部市外部評価委員会の開催実績

回	期日	評価対象事業
第1回	令和3年11月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚活動支援事業 ・地域子育て支援拠点事業
第2回	令和3年12月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・消雪工施設整備事業(施設リフレッシュ) ※関連事業として除雪対策費含む ・公共下水道施設整備事業

3 評価結果

事務事業名	今後の方向性・コメントなど
担当課名	
結婚活動支援事業	<p>人口対策として事業の継続が望ましいと考える。 コロナ禍で出会いの機会も減少しているため、対面にとらわれることなく、オンライン、SNSを十分に活用してもらいたい。 また、結婚を考えている、将来結婚したいと思っている人たちに積極的に参加してもらえようとする婚活パーティーを実施して一組でも多くの成婚を目指し、定住施策もしっかりPRして、結婚後の市内の定住に繋げるべきと考える。 活動のアイデアとして、サポートを受けて成婚された方を経験者として縁結びさんへの登録を促す、各団体の協力を仰ぐ、地元（小矢部）をアピールした企画の実施（スポーツメインの企画（ホッケー）、クッキング企画（地場食材使用））、企業対企業の団体同士のイベント、開催時間帯を変えた「真夜中のオンライントーク」の実施などを検討してはどうかと考える。</p>
定住支援課	
地域子育て支援拠点事業	<p>子育て中の親御さんの不安解消や子どもが孤立しないように交流の場として、事業の継続が望ましい。 初めての出産・子育てのママにはとても大事な場所であり、市民に寄り添った支援が大切である。 また、公立の施設については、こども園と併設した支援センターとなったことにより、入所しやすくなったうえに、近くに知っている先生がいることは心強い。一方で、公立施設でもニーズに応じて土日開所を実施することや、中身を充実させる、楽しめる、相談できる、勉強になる、意見交換ができる、専門家の意見が聞ける等を宣伝して口コミやSNSでも話題になるなどの、利用者を増やす努力が必要と考える。</p>
こども課	
消雪工施設整備事業 （※除雪対策事業含む）	<p>市民の冬期間の生活の安全・安心の確保のために、今後も継続していくことが必要と考える。降雪量に関係なく、設備及び車両等の維持管理などの固定費についても、維持継続が必要と考える。消雪設備の施設リフレッシュについては、これまでどおり優先順位をしっかりと検討した上で、国の交付金の範囲内で順次実施していくべきと考える。 除雪対策事業に関しても、引き続き事業継続が必要。昨年度発生した大雪に関しては、県とも協議し対策計画を策定して準備をされており、連携した対応が重要である。また、今後も災害級の大雪が定期的な起りうることから、有事の際には行政だけに頼ることなく、地域で除雪を行うなどの、市民一人ひとりの除雪に対する意識づけも必要と考える。</p>
都市建設課	
公共下水道施設整備事業	<p>衛生環境の確保のため、健康な生活環境の確保のためにも重要な事業であるので、必要不可欠なものであり、継続が必須であると考えます。 しかしながら、人口減少の中、施設の老朽化の対応に維持管理費が増大していくことが予想され、また汚水処理10年概成の達成のためには、毎年多額の費用負担が発生するが、こういった条件が厳しい中でも、特別会計から経営状況が明確になる公営企業会計に変更されたことも意識しながら、接続の意向・利用状況をはじめとした、収入と支出等を正確に把握し、事業の効率化や経営安定化・健全化に尽力すべきと考える。</p>
上下水道課	